

# 大阪市立高校21校を廃止し大阪府立に移管する条例が、 大阪市会ならびに大阪府議会で賛成多数によって可決されました。

反対の

自民党はこれまで市立高校の府立移管に対して反対をしてきました。



## 3つの大きな理由

### 1 教育内容などについて

大阪市立として特色のあった教育内容や、サービスが失われてしまいます。市立高校の特色は、商業、工業など専門学科を中心に、卒業後は社会の即戦力となるよう人材の育成に取り組んできた所にあります。少子化が進み、技術者、クリエイター、介護職など、今後ますます担い手不足と人材不足の問題が顕著となる中で、これまで市立高校が募集定員を減らしてでも学校と学科を守ってきました。しかしながら府立高校では定員割れが3年連続となると学校再編され(3年ルール)、統廃合もしくは廃校がすすめられます。

信じられないことに松井市長はこれまで、一度も市立高校いずれにも出向いたことがなく、生徒や卒業生、教職員や関係者と移管について話し合いはされていません。住民投票によって大阪市の存続が決まった今、府への広域一元化・移管は、まさに都構想と同じく、市民置き去りの政治目的であると言わざるを得ません。



### 2 土地の無償譲渡について

高校移管での土地(大阪市の財産)は、路線価ベースでさえ1275億円もし、それがすべて府へと無償譲渡されることになります。

### 3 法令上の問題点について

自民党は市立高校等を大阪府に無償譲渡するにあたり、法令上の問題点の有無について専門家に確認したところ、違法の可能性が指摘されました。本件無償譲渡を実施する目的について、「なぜ、本件行政財産を無償で譲渡を行うのか」、「譲渡によって大阪市及び大阪市民が得られる利益は何なのか」、「台帳価格約1500億の損失を補うものは何なのか」について客観的な根拠が説明されておらず、違法の可能性があります。



## 2020.11.1 住民投票 反対多数で 2度目の否決!

政令指定都市・大阪市が市民の手によって存続しました!

反対 692,996票  
賛成 675,829票

誰もが驚いた

### 3週間での形勢逆転

告示直前の情勢: 反対35.3% 賛成49.1%

約14%の差があり、非常に厳しいスタートであったことはまちがいない

開票結果: 反対50.38% 賛成49.62%



### 住民投票の民意

究極の民主主義といわれる直接民主主義「住民投票」の結果と、間接民主主義「議会議決」が逆転…  
議会は民意を代弁していない!?

住民投票約5割反対 / 大阪市会約7割賛成



### 投票率・票差

投票率は少し下がったとはいえ前回同様60%を超える高い投票率の中、反対賛成の差は広がった

前回は投票率66.83% → 今回62.35%

前回は票差は10,741票差 → 今回17,167票差



### 3週間にわたる、市民を分断した総力戦

行政のおこなう住民説明会がコロナ禍で大幅縮減され、丁寧な説明がなされない中、市民がみずから情報を取りに行き、危機感を感じた市民が自作のポスターを貼り、ピラをまき、マイクを借りて演説するなど、告示後の活動は「大阪市廃止反対」を謳う市民の熱量が次第に増していった。それに対し、賛成運動は市民運動へとつながらなかった。

